

美濃加茂市新庁舎整備基本構想 策定フロー

H29.2.7

老朽化

本庁舎本館は昭和36年に建築・利用開始され、**築後55年が経過**
本庁舎西館は昭和54年に建築・利用開始され、**築後37年が経過**
建物本体・設備の老朽化が進行。県内では2番目に古い建物・・・

耐震性

本庁舎・西館は旧耐震基準(昭和56年以前)の建築物
平成15年度に耐震改修工事を実施した結果、
庁舎の倒壊は免れるものの、施設の機能を維持することは困難

不便

本庁舎の建物は狭く、**市民窓口の機能向上(フロアレイアウト等)は限界**
高齢者や乳幼児連れのお客様などへの施設機能改修(バリアフリー等)も限界
分散化した庁舎配置・・・

【参考1】

RC造	処分制限期間	50年
	施設計画耐用年	60-65年

【参考2】

Is値	改修前	0.5
	改修後	1-3階 0.72
		4階 0.61

優先
事項

第5次総合計画において平成31年度までに公共施設の耐震化完了を目標設定
優先すべき保育所・小学校・中学校などの耐震化を平成27年度に完了
対応残施設は西体育館・下古井交流センター・文化会館。第5次総目標を達成見込み。

災害

平成28年4月 熊本地震発生
熊本県内5市町村の庁舎が使用できない機能不全状態となる。
行政サービスの提供に影響が大きいことが明らかに。市民の関心も高い。

計画

公共施設等総合管理計画(H29.3策定公表)において、新庁舎について緊急性を有する事業として位置付け。(市民意向調査では防災拠点の整備を最重要視)
市議会においても、新庁舎建設特別委員会を設置。

財政

平成24年度より庁舎建設基金を設置
平成28年度末現在高見込み 約500,000千円。
庁舎の整備コストの低減化、基金の継続的な積み立て等が課題。

プラン・ビジョン・コンセプト
まちをデザインする

早く利用できるように

早期に事業に着手し、新庁舎の利用に至ること

財政負担を減らせるように

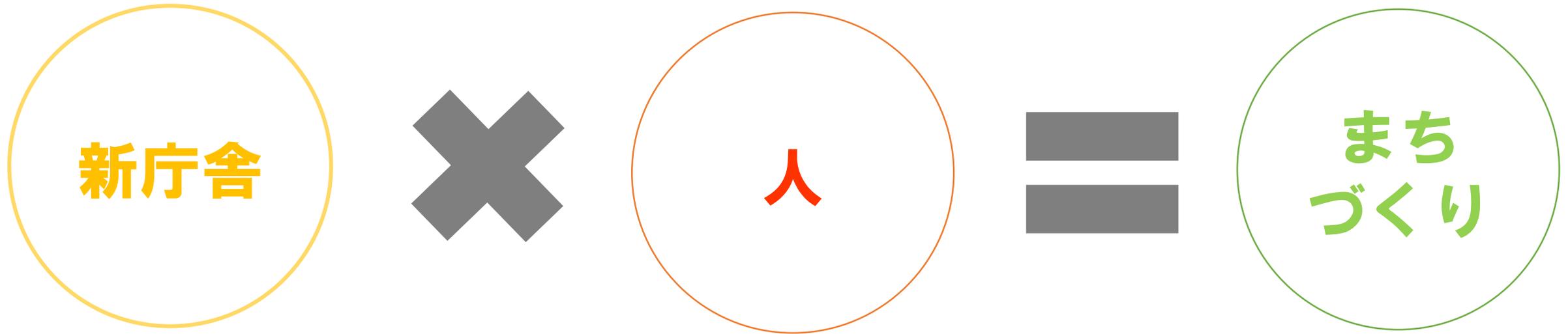
財政負担を平準化し、かつ建設コストの低減化につとめること

施設を経営する

新たに公共施設を経営する視点をもって、
計画・設計・建設・利用計画をマネジメントすること

利用者の声をいかにして

利用者の声を反映した、便利で安心・快適な庁舎とすること



新庁舎の建築は美濃加茂市100年の計・・・
市民と共に未来につづく 新しい庁舎への夢と希望をつむぐ旅。

新庁舎をいかした「まちづくり」へ

従来型手法、民間活用、市民参画、複合施設・・・事業手法の選択肢は広がった。

未来の市役所のあるべき姿、未来の市民にとって「あってよかった」と思われる市役所のカタチを求めて

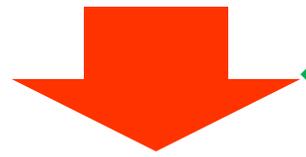
平成28年度より、現況の課題を整理し、新庁舎整備にむけた調査・研究を進め、課題解決の比較分析をまとめた「基本構想」策定に着手する。「基本構想」では『新庁舎を活かしたまちづくり』の構想を策定し、その後、建設予定地・事業手法の決定を含む「基本計画」へ。新庁舎整備にむけて動き出すことによって、市民に安心を・・・

ワークショップ・アンケート・ニーズリサーチ・パブリックコメント



基本構想
H28-29

現庁舎の課題整理
 新庁舎に求められる基本機能の整理
 新庁舎整備事業手法(建設候補地)の比較分析
 新庁舎をいかしたまちづくり構想の策定

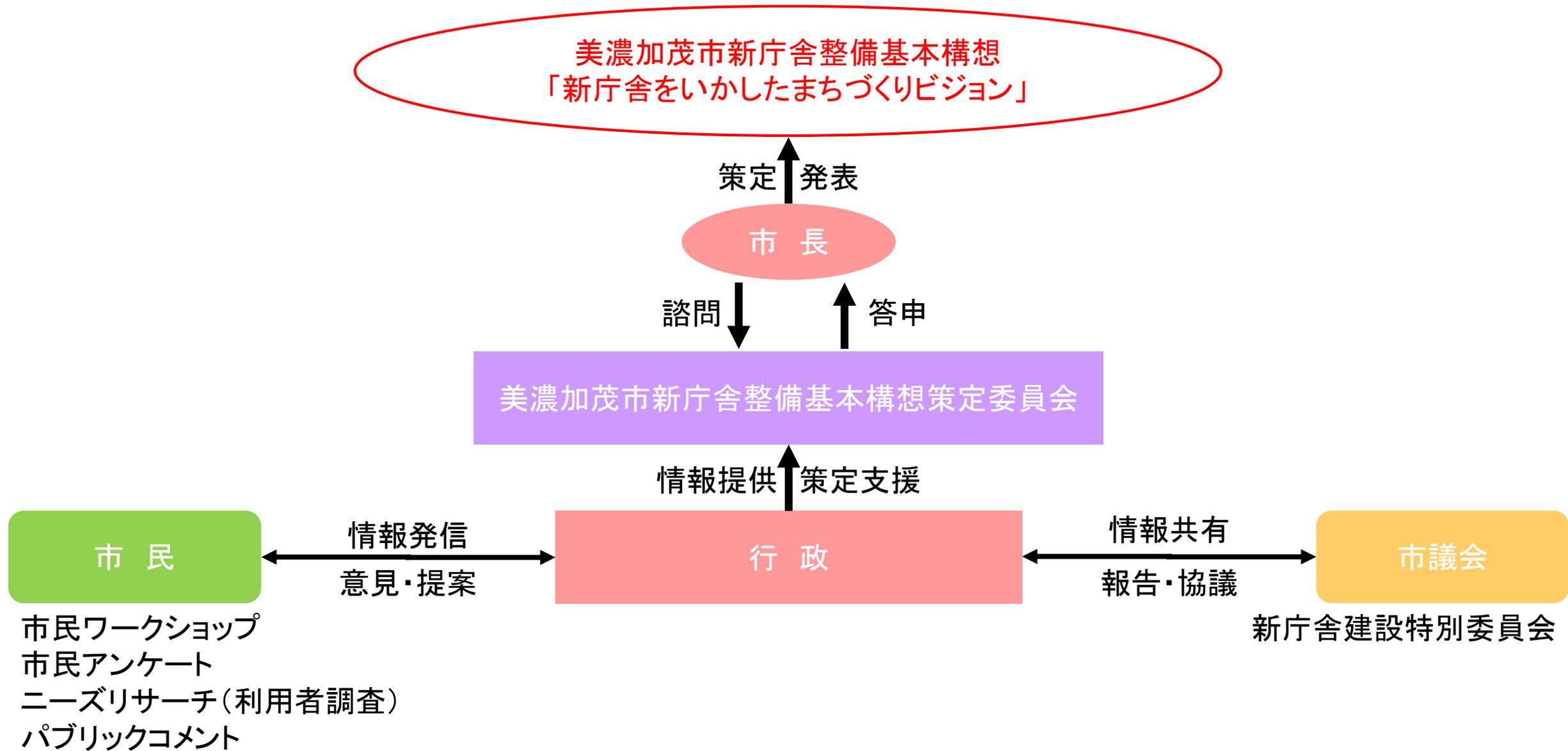


民間活用優先の場合は
市場調査(導入可能性調査)等

方針
表明

基本計画
H30-31

新庁舎の概略の規模・機能の決定
 新庁舎の建設予定地・建築事業手法の決定
 新庁舎建設の財政計画・建設工程の決定



H30.1

構想素案



H30.2

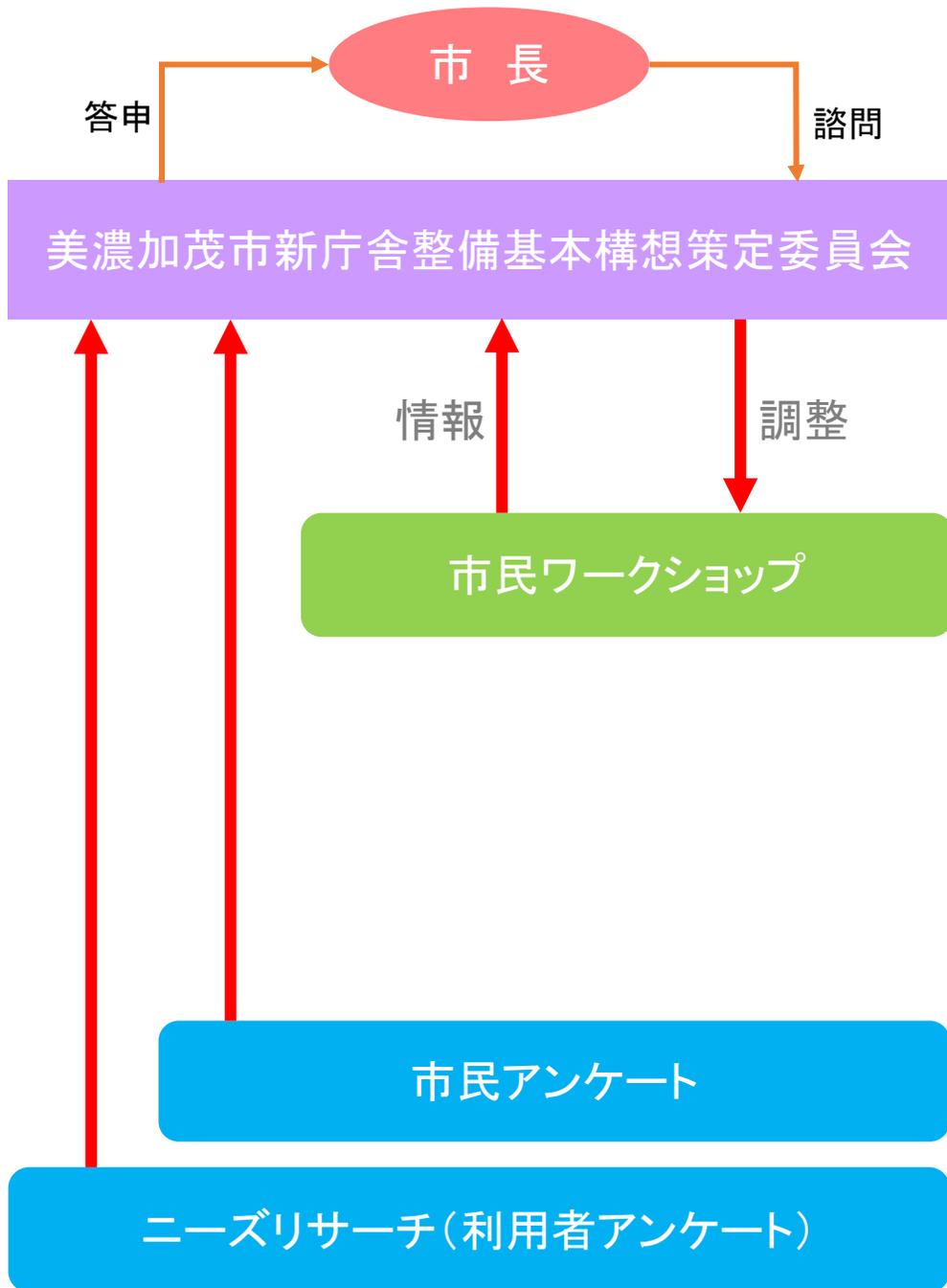
構想案



H30.3

構想





■基本構想案を策定・答申する

- 学識経験者:名城大学都市情報学部 海道清信 教授
名古屋工業大学工学部 須藤美音 准教授
- 公共的団体等の代表者等
- 市民公募委員
→情報の整理・集約、基本構想素案の策定

■市民の思いやアイデアを集約する

- 市民ワークショップ(生涯学習講座型 集中開催)
→公募・案内状型。定員50名程度。課題見つけと展開、まとめのFB
→フィールドワーク。生涯学習講座型まちあるきWS・庁舎再発見WS
- 社会実験(まちなかラボ)
→社会実験型リサーチ。イベント参加型・短期設置型
- おでかけワークショップ(アウトリーチ型 テーマ開催)
→若者・子育てパパママ世代・高齢者など。特定のグループ・テーマにアクセス
- みらいフィールドワーク(夏休みのまちあるきワークショップ)
→中学生・高校生を対象とした、夏休み体験学習型のワークショップ

■市民のトレンドを知る

- 市民無作為抽出アンケート調査(郵送)

■利用者のニーズを知る

- 庁舎窓口利用者アンケート調査(聞き取り+α)

フォロー
オーダー

工程

第1
ターム

- 基本構想策定委員会①【2月】 委員の委嘱と諮問 経緯と全体工程の確認 委員会の目的の共有
- 基本構想策定委員会②【3月】 現庁舎の課題 新庁舎をいかしたまちづくり 基本理念
- 基本構想策定委員会③【4月】 新庁舎に求められる基本機能

2月～4月

考
え
る第2
ターム

- 市民アンケート【4月】 郵送アンケート(ワークショップの案内状も送付) 市民全体の意向・トレンドを確認する
- 市民ワークショップ①(生涯学習型)【5月】 参加者公募案内状型 キーワードをもとに新庁舎を語る
- 市民ワークショップ②(生涯学習型)【6月】 参加者公募案内状型 庁舎・まち歩きフィールドワーク 庁舎からまちへ
- おでかけワークショップ(アウトリーチ型)【5～7月】 高齢者や子育てパパママなど多様な世代を対象 新庁舎への期待
- 利用者アンケート(ニーズリサーチ)【5～7月】 市役所利用者ニーズ調査 利用者の目的・行動傾向、ニーズ分析

4月～7月

調
べ
る第3
ターム

- 基本構想策定委員会④【7月】 ワークショップの振り返り アンケート結果の整理と分析 事業手法・候補地の検討と整理
- 市民ワークショップ③(生涯学習型)【7月】 参加者公募案内状型 庁舎の未来からまちの未来へ 私たちの夢へ
- みらいフィールドワーク(夏休みのまちあるきWS)【8月】 中学・高校生夏休み体験講座 庁舎を知り、まち歩き、夢を描く
- 先進地視察【9月】 庁舎をいかしたまちづくりの先進地視察調査 委員・ワークショップ参加者による視察
- 新庁舎まちなかラボ(社会実験)【8～10月】 新庁舎に関するまちづくり社会実験 イベント共催型・期間限定他

7月～10月

整
え
る第4
ターム

- 基本構想策定委員会⑤【10月】 社会実験結果の確認 複数の事業手法と候補地の整理・検討 基本構想案のとりまとめ
- 基本構想策定委員会予【11月】 基本構想案のとりまとめ作業
- 基本構想策定委員会⑥【12月】 基本構想案の確認と調整
- 基本構想案(答申案)の発表・報告会【1月】 基本構想案(答申案=素案)の市民報告会 市長へ答申

10月～1月

ま
と
め
る

※基本構想策定委員会部会は必要に応じて随時開催

▷ 市長へ答申【1月】 ▶▶▶ パブリックコメント【2月】 ▶▶▶▶▶ 構想発表【3月】

新庁舎整備基本構想の概要(仕様)

- 1 新庁舎を活かしたまちづくり構想の策定
- 2 新庁舎整備に係る基本理念の策定
- 3 現庁舎(西館及び分庁舎を含む)の課題整理
- 4 新庁舎に求められる基本機能の整理及び法的整理
- 5 新庁舎整備事業(従来型の形態)についての提案
- 6 新庁舎整備事業(従来型以外の形態)について提案
- 7 新庁舎整備候補地の複数選定と課題整理
- 8 住民ニーズ、利用者ニーズの調査と分析

新庁舎整備基本構想策定委員会 審議事項予定表

委員会（全6回）→	1	2	3	4	5	6	備考
目的の共有	○						
1 新庁舎を活かしたまちづくり構想		○			○	○	
2 新庁舎整備に係る基本理念		○			○	○	
3 現庁舎（本館、西館及び分庁舎）の課題		○			○	○	
4 新庁舎に求められる基本機能			○		○	○	
5 新庁舎整備事業（従来型の形態）				○	○	○	
6 新庁舎整備事業（従来型以外の形態）				○	○	○	
7 新庁舎整備候補地の複数選定と課題整理		△	△	○	○	○	
8 住民ニーズ、利用者ニーズの調査、分析							随時